



令和7年度岐阜県商工労働部試験研究機関評価員会議

生活技術研究所評価報告書

(評価対象年度 令和元年度～令和6年度)

令和8年2月

岐阜県生活技術研究所

岐阜県商工労働部産業イノベーション推進課

1 評価員会議実施概要

(1) 評価日

令和7年10月29日(水)

(2) 評価員名簿

土川 覚	名古屋大学大学院生命農学研究科 教授
吉田 宏昭	信州大学繊維学部 教授
白川 勝規	協同組合飛騨木工連合会 代表理事 株式会社シラカワ 代表取締役会長
岡田 明子	飛騨産業株式会社 代表取締役社長
田島 宣浩	セブン工業株式会社内装建材事業本部 副本部長 兼生産管理部長

(順不同、敬称略)

(3) 評価対象年度

令和元年度から令和6年度

2 評価結果

(評価員 5 名の平均点を表示)

評価項目	研究課題の設定	研究体制	成果の発信と 実用化促進	技術支援	人材の育成・ 確保
評価点 (5 点満点)	3.8	4.2	3.8	4.2	3.8

【評価点基準】 1 : 抜本的な見直しが必要 2 : 見直しが必要 3 : 概ね適切である
4 : 適切である 5 : 優れている

3 評価員からの意見・提言及びそれを受けての試験研究機関等の所見・改善策等

(1) 研究課題の設定

総評

研究課題の設定については、地域に密接した課題に取り組むなど、適切に行われている。今後も、国が現在進めている国産広葉樹の利活用に関する研究など、世の中の動きや企業ニーズをタイムリーに捉えた研究課題に取り組む必要がある。

評価員からの意見・提言及び、意見・提言に対する試験研究機関の改善策等

意見・提言	意見・提言に対する試験研究機関の改善策等
<ul style="list-style-type: none">・地域、産学、県民生活に密接した課題を抽出し実用化を意識したテーマ設定がなされている。さらにこの地域のブランド化を目指した課題設定が望ましい。	<ul style="list-style-type: none">・引き続き各方面からニーズを収集しテーマに反映していきます。今後は、岐阜県の森林、匠の技術、自然・人への配慮といったテーマをさらに意識し、技術面からブランド力を高めるための支援を実施していきます。
<ul style="list-style-type: none">・産官学という言葉があるように、官の機関として、産と学をつなぐ役割をもっと積極的に果たして欲しい。・ものをひとに届けることを考えると、ひととものに関する研究のさらなる充実を求める。	<ul style="list-style-type: none">・国立研究機関や大学等の先端研究の中から、地場産業にとって有益で、実用化が見込める技術を見極め、共同研究等によって企業への展開に務めます。・ひと・もの関連の研究体制として、人間工学、感性工学、デザイン担当職員を配置しています。現在は木材の色目の感性評価や、着座時の脊柱形状を簡易に測る手法について検討しています。今年度は新規採用も行いましたので、引き続き内容を充実させていき

	ます。
<ul style="list-style-type: none"> ・研究課題の設定については適切であると思われる。 ・今後は県産材の広葉樹の活用をもう少し掘り下げて欲しい。飛騨市、高山市、白川村の 94%が森林であり、その内の 58%が広葉樹林である。これには国有林や市村有林などの公有林を含むが、その活用と森林整備が急がれている。今、伐採できる民有林の広葉樹の多くは2次林であり、小径木が多いが、椅子の部材等であれば、短尺、狭幅の物も使える。ただ、それらを使うには節などの欠点の近くの材料が飛騨の家具の特徴である曲木に使えるのか等、研究課題はある。是非、生活技術研究所で課題として取り上げて欲しい。 	<p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度から、飛騨産広葉樹に関連するプロジェクト研究を開始し、多樹種にわたる各種物性の調査と、その特徴に合わせた用途提案や製品開発を予定しています。曲げ加工に関する研究は当所で継続的に実施しており、飛騨産広葉樹の特性を考慮した前処理や曲げ条件、乾燥方法などについても検討していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・家具産業との連携により、研究とそのアウトプットが見えやすい。 ・更に世の中の動きを捉え、産業をリードして欲しい。 	<p>—</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・木材や家具に掛かる内容や、素材や加工に掛かる研究内容をリストアップしているので、実践に近い課題を取り組まれていると思う。 ・岐阜県は数少ない国産広葉樹の産地でもある。是非とも、 	<p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度から、飛騨産広葉樹に関連するプロジェクト研究を開

<p>岐阜県産広葉樹に掛かる研究課題に取り組んで、内外への発信を行って欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組む課題のタイムリー性を良くするためにも、予算のタイミングと上手に調整いただくと良い。課題の鮮度に関して、一歩出遅れている感がある。 	<p>始し、多樹種にわたる各種物性の調査と、その特徴に合わせた用途提案や製品開発を予定しています。【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度研究計画は、前年度夏頃に内容を固める必要があるため、今後は、より幅広い情報収集に努め、進行中の研究内容の修正や、新規で立ち上げることで、タイムリーに対応できるよう努めます。また、個別の企業課題に関しては、随時受付が可能な受託研究による対応も実施します。
--	--

(2) 研究体制

総評

<p>研究体制は、専門性をもった研究員の限られた人員による配置を含め、概ね適切である。人材交流や相互のキャリアアップを図るため、大学との共同研究を増やすことが望まれる。</p>
--

評価員からの意見・提言及び、意見・提言に対する試験研究機関の改善策等

意見・提言	意見・提言に対する試験研究機関の改善策等
<ul style="list-style-type: none"> ・限られた人員の中で効率的に研究を進めている。 ・若手研究員の主体的参画が期待される。 ・AI の積極的導入を期待する。 	<p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、新規研究員を2名採用し、既にそれぞれ専門分野を生かした研究を担当しています。 ・今年度より、プロジェクト研究として、家具の生産工程において

	AI を活用する技術開発に取り組んでいます。県産業技術総合センターや大学等の外部機関とも連携して対応していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・大学との共同研究をもう少し増やして欲しい。それに伴い、人材交流もでき、学生のキャリアアップにもつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は大学と2件の共同研究を実施しており、今後も大学のシーズを活用できる研究テーマについては共同研究を実施し、先端的な研究成果を地場産業へ橋渡しすることを進めていきます。また学生との交流を通じて、研究所や県内企業で働く人材の育成・確保につながるよう努めます。
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に様々な装置を導入しており、とても良いと感じた。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・研究所内が綺麗であると感じるため、これからも保って欲しい。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・新卒2名が入ったことは嬉しく思う。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・30代の研究員がいないが、ある程度離れていた方が、労使関係等でうまくいくのではないか。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・家具開発にはなくてはならない場所となっている。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・専門性を持った研究員の配置含め、概ね、適切であると思う。 	—

(3) 成果の発信と実用化促進

総評

研究成果等の情報発信を行っているが、まだ十分に行き届いていない感じを受ける。
SNS を活用するなど、今後も積極的な情報発信を望む。

評価員からの意見・提言及び、意見・提言に対する試験研究機関の改善策等

意見・提言	意見・提言に対する試験研究機関の改善策等
<ul style="list-style-type: none"> ・学会発表や特許出願などの成果発信が活発である。 ・国際誌・国内誌への投稿も期待する。 	<p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進性の高い研究成果については積極的に実施していきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・情報量が少ないため、生活技術研究所からの発信についてはもっと積極的でも良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発信方法については、継続的に検討し、改善していきます。近年は、メーリングリストによる情報発信体制を整備し、順次登録者を増やしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨木工連合会を通して色々と情報を提供して欲しい。 ・よりメディアへのPRに力を入れても良いと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨木工連合会への情報提供は継続して実施していきます。 ・今年度は県政記者クラブとの勉強会（個別研究成果の発表会）を2回開催しました。講演会開催やイベント出展の周知など、積極的に情報発信を実施していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用を検討されてはどうか。県の施設と云うと、お堅いイメージがあるが、フランクな発信をすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS活用については、県全体のルールや、他の研究所との調整を踏まえ、有効に活用できる方法を検討していきます。

で、興味を持たれる方も増えて行くと思う。日々の更新が大変かとは思いますが、検討して欲しい。	
---	--

(4) 技術支援

総評

技術相談、依頼試験などの技術支援は適切に実施されている。専門性を高めるための企業との研究会を引続き取り組んで欲しい。
--

評価員からの意見・提言及び、意見・提言に対する試験研究機関の改善策等

意見・提言	意見・提言に対する試験研究機関の改善策等
・技術相談、依頼試験などの支援活動が充実している。	—
・県内企業からの信頼が厚い。	—
・ホームページで相談先をより分かりやすく明示すれば、より相談が増え、活性化するのではないか。	・ホームページにおいて、技術相談の連絡先を分かりやすい位置に掲載します。全体的なデザインや分かりやすさの改善については、予算の都合上、内製で対応しているため課題がありますが、随時改善を意識して取り組んでいきます。
・いつも支援いただき、ありがたく思う。	—
・企業との研究会は有意義なイベントであると思う。特定	・業界に共通する基盤技術の開発や新たな装置や加工機の活用検討、

<p>の課題にフォーカスするので、マイノリティ感は否めないが、専門性は高まる。研究会のテーマと同等の取組を検討している企業にとっては興味の沸く内容かと思うので、今後も継続して欲しい。</p>	<p>製造工程への新技術導入など、木工業界に共通する課題について、今後も企業との研究会を継続していきます。</p>
---	---

（５）人材の育成・確保

総評

<p>若手職員の確保はできているが、中堅や更なる次世代の人材確保に向けての対応が必要である。採用や人事育成に関しては、大学等の教育機関や海外の関連機関とも連携を図り、体制を整えることが望ましい。</p>

評価員からの意見・提言及び、意見・提言に対する試験研究機関の改善策等

意見・提言	意見・提言に対する試験研究機関の改善策等
<ul style="list-style-type: none"> ・若手職員の確保もできており、大変素晴らしいことであるが、更なる次世代の人材確保に向けた対応をして欲しい。 ・採用に関して大学等との連携強化を図られたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県の研究機関全体で若手人材の不足が課題となっているため、今後、産業支援機能が低下しないよう、計画的な採用を進めていきます。 ・計画的な採用を進めていくためにも、インターンシップの受け入れや共同研究等により連携強化を図ります。
<ul style="list-style-type: none"> ・30代の研究員がいないため、人材の受け入れや体制に 	<ul style="list-style-type: none"> ・県の研究機関全体で若手人材の不足が課題となっているため、今

課題があると思う。	後、産業支援機能が低下しないよう、計画的な採用を進めていきます。 【再掲】
<ul style="list-style-type: none"> ・研究員の育成体制については、年が離れていた方が育成しやすいと思う。 ・近隣にある木工芸術スクールとの官学連携を進めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の面はあるかと存じます。専門領域の円滑な技術承継と業務全体の指導方法の共通理解にも努めます。 ・現在も学生の授業や社会人研修事業で連携を行っていますが、さらに業界支援を強化できるよう検討していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・若い研究員を採用できたことは良い。 ・国や大学など多様な方が生活技術研究所への研修・インターンシップを通じて、地元企業と交流する場があっても良いのではないかと。 	<p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学からの長期的な研修受け入れや、共同研究を実施する際には、関連企業との交流も検討していきます。共同研究については、産学官の枠組みで進めた事例もあります。
<ul style="list-style-type: none"> ・研究員の年代のバランスも取れて、安心できる体制になりつつあると思う。 ・森林文化アカデミーのように、海外の機関との提携も検討してはどうか。視点が広がるのはもちろんだが、興味を持って応募する方も出て来るのではないかと。生活技術研究所のイメージも変わって来ると思う。 	<p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際学会等を通じて幅広く技術情報を収集し、県内企業に還元できる技術については、連携の可能性を検討していきたいと考えています。

(6) その他

評価員からの意見・提言及び、意見・提言に対する試験研究機関の改善策等

意見・提言	意見・提言に対する試験研究機関の改善策等
・各研究員それぞれに専門のスキルがあると思うが、他のスキル向上にもチャレンジして欲しい。そうすることで研究力が向上し、岐阜県全体の底上げにもなると思う。	・研究員が外部の研修を受講する事業の活用や、担当する試験項目のローテーションを通じて、個々の研究員のスキルの幅を広げられるよう努めます。
・建物についてはリニューアルされたりしていて綺麗に見えるが、築 50 年以上経っている建物の耐用年数が心配である。早急に検討すべきと考える。	・県機関全体の課題として、所管課と調整の上、将来的な施設のあり方を検討していきます。
・対応している試験内容も充実しており、ありがたく思う。今後もいろいろと相談させていただく。	—